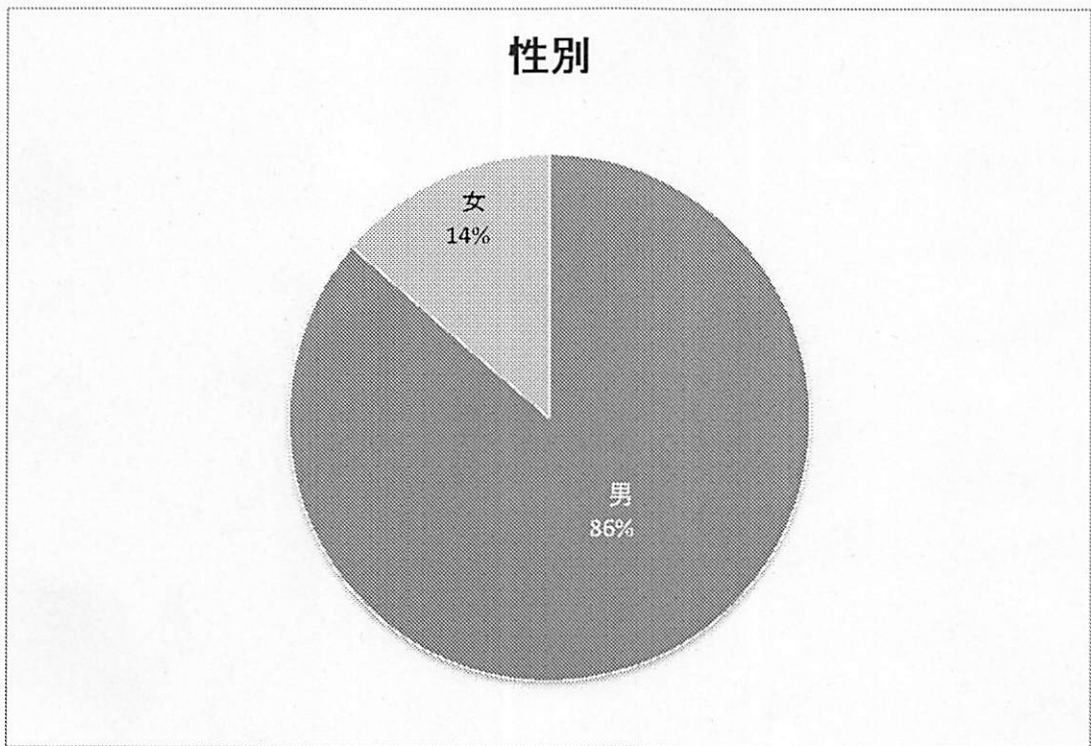
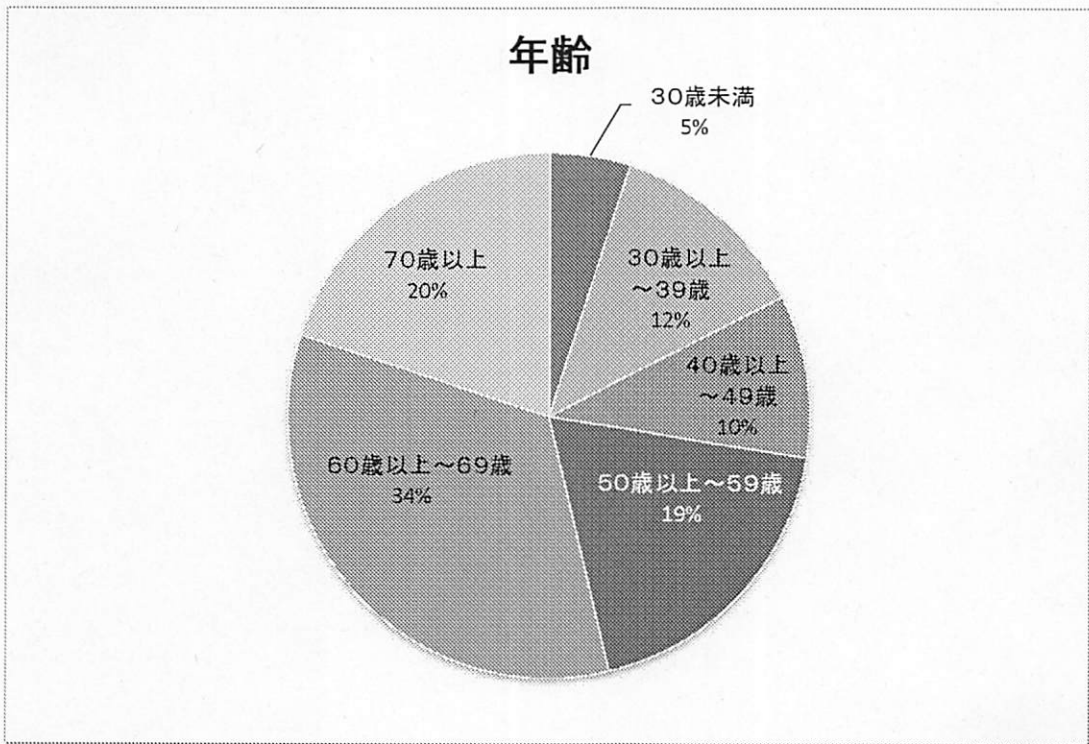


問 1 あなたの性別は。

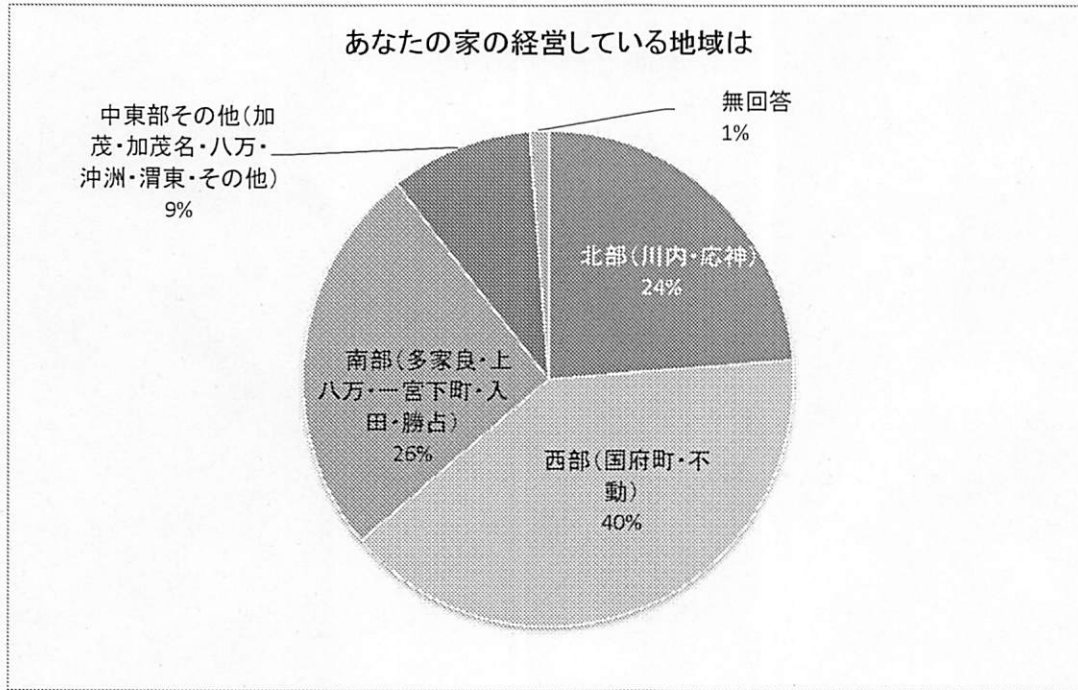


問 2 あなたの年齢は。



コメント：60歳以上が半数以上を占めており、30歳未満は少ないものの他の年齢層は適度にばらけている。担い手の高齢化の現状に近く、また若年層についても幅広く意見が聞けた。

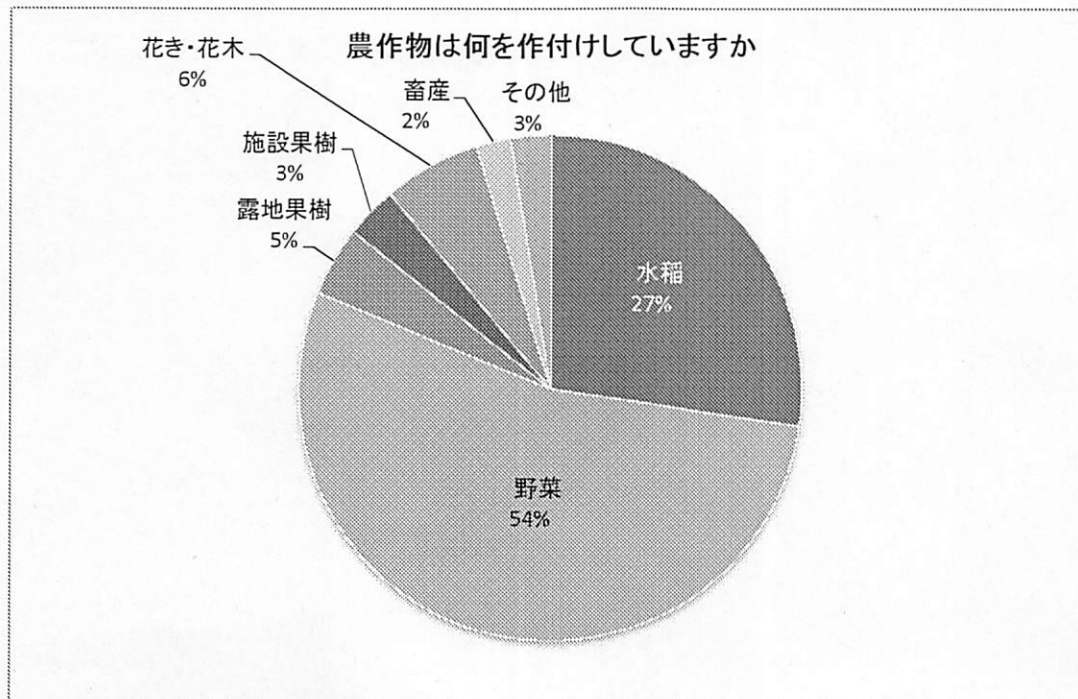
問 3 あなたの家の経営している地域は。



コメント：農業振興地域についてはバランス良く地域の意見が聞けた。市街化地域を含む地域についても少ないものの聞き取りができた。

問 4 農作物は何を作付けしていますか。主なものを次から選択してください。

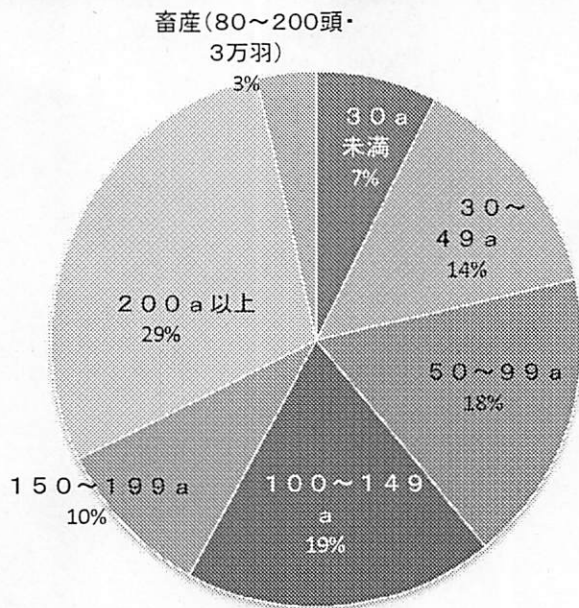
(2)～(5)を選択された方は、主な品目を記入してください。



コメント：野菜が最も多く、次に多いのが水稲をしている農業者となり、本市の特徴的な経営農家から回答が得られたほか、果樹農家や花き、畜産農家等にも幅広く聞き取りが行えた。

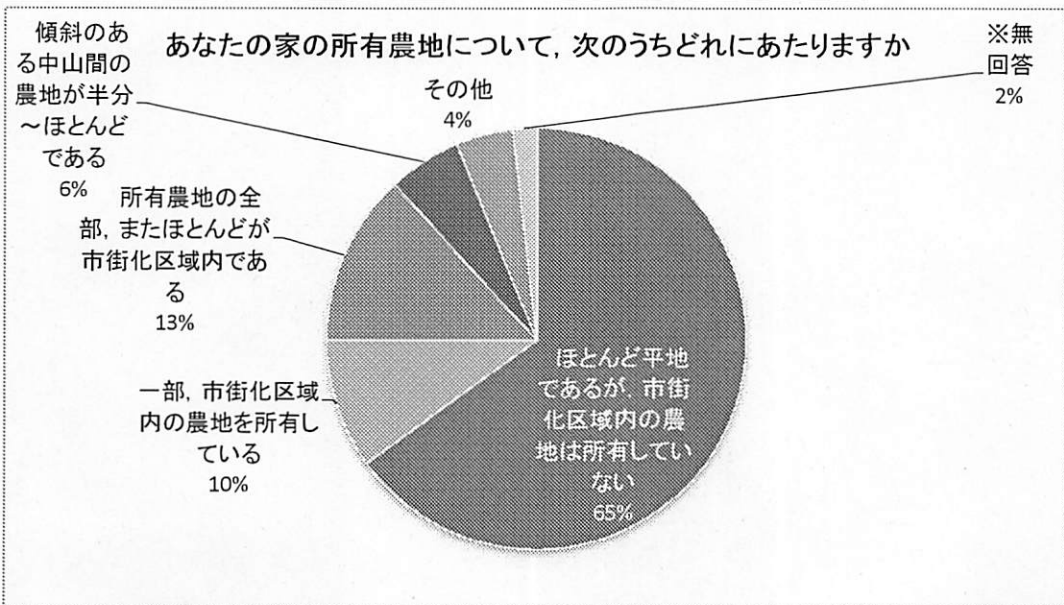
問 5 あなたの家の経営耕地面積（田・畑・果樹園の合計）は、何アールですか。
畜産の場合は（7）にも頭羽数を記入してください。

あなたの家の経営耕地面積（田・畑・果樹園の合計）は、何アールですか。



コメント：200 a 以上の農業者が最も多く、次に100～149 a、50～99 a、30～49 aと続く。200 a 以上の生産者内訳については、問4の調査結果により水稲農家の3割強、野菜農家の2割強、果樹農家の4割、花き農家の1割超、畜産農家については半数がこれに該当（水稲+野菜などの複合経営農家（問4で複数回答）はそれぞれ重複してカウント）した。畜産については経営力のある畜産農家からの回答となった。

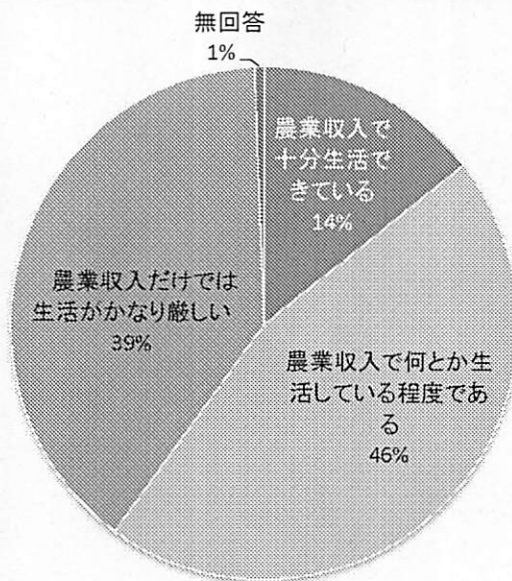
問 6 あなたの家の所有農地について、次のうちどれにあたりますか。



コメント：「ほとんど平地であるが、市街化区域内の農地は所有していない」が最も多く、「所有農地の全部、またほとんどが市街化区域内である」が次に多かった。市街化調整区域内の農地の所有者が多いが、市街化区域内農地の所有者も多く、当該農業者についても十分意見の聞き取りができた。

問 7 あなたの家の農業収入について、次のうちどれに該当しますか。（1つだけ選択）

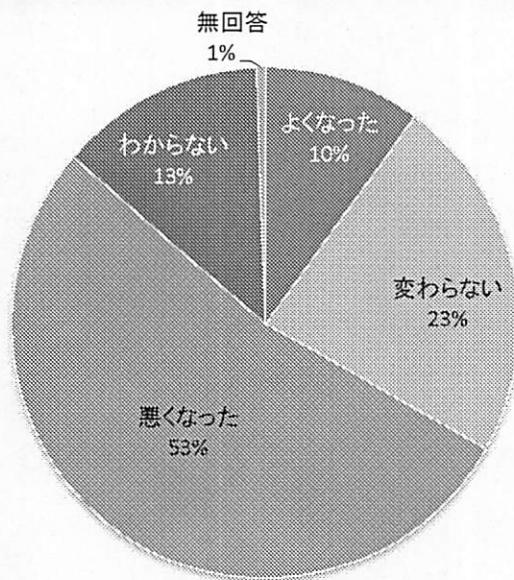
あなたの家の農業収入について、次のうちどれに該当しますか



コメント：「農業収入で何とか生活している程度である」が最も多く、「農業収入だけでは生活がかなり厳しい」が次に多い。収入状況は厳しいといえる。

問 8 あなたの農業経営状況は5年前と比べてどうなったと感じますか。（1つだけ選択）

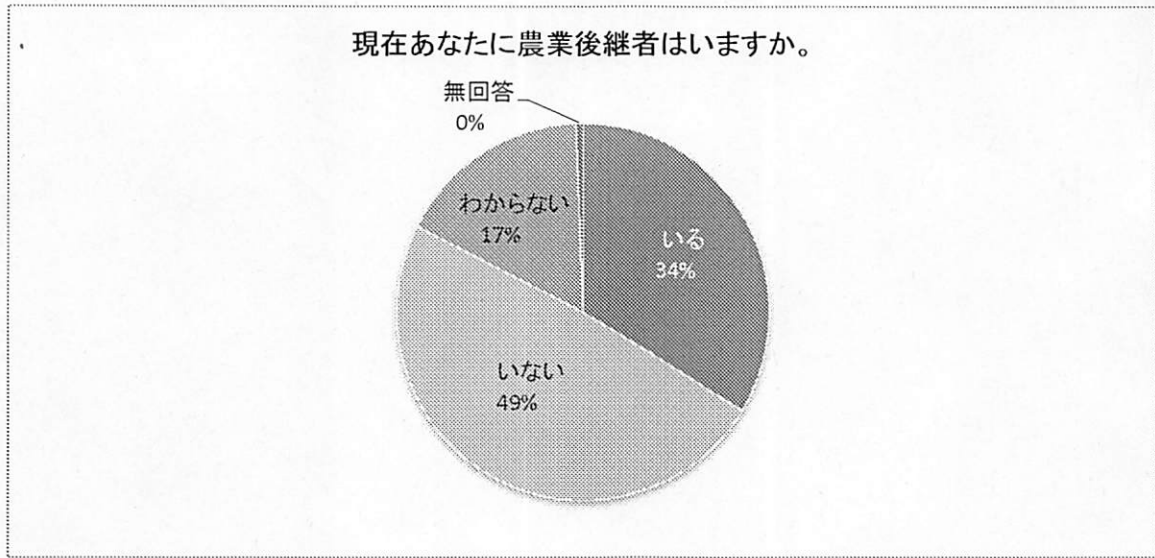
あなたの農業経営状況は5年前と比べてどうなったと感じますか



コメント：「悪くなった」が最も多く、「変わらない」が次に多かった。農業者は経営状況の悪化を感じている。

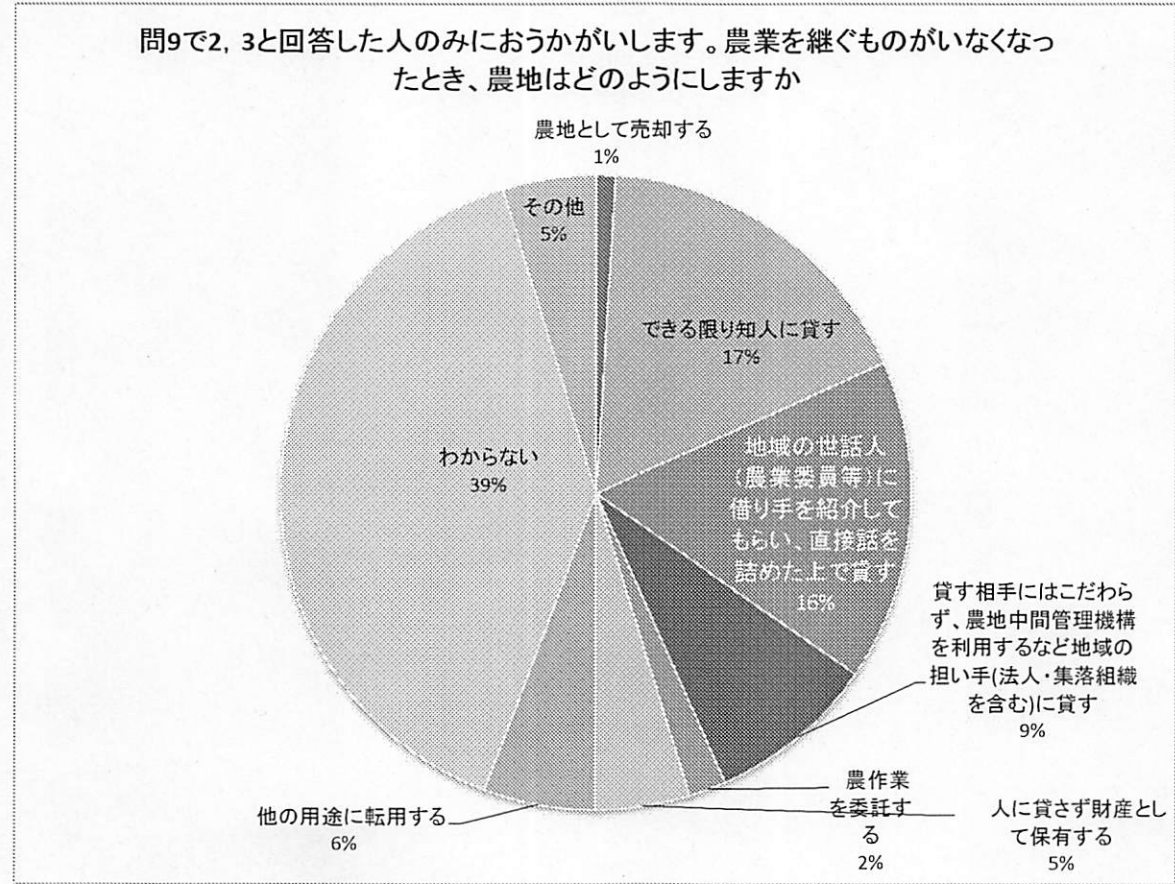
Ⅱ 将来の農業経営についておうかがいします。

問 9 現在あなたに農業後継者はいますか。



コメント：「いない」「わからない」が6割以上を占めている。内訳については、「いない」と答えた者のうち70歳以上は15人(19%)。また、問2による年齢70歳以上の人のうち「いない」と答えた人は47%、「わからない」も含めるとほぼ6割に達する。農業を引き継いでいくことが困難である状況がうかがえる。

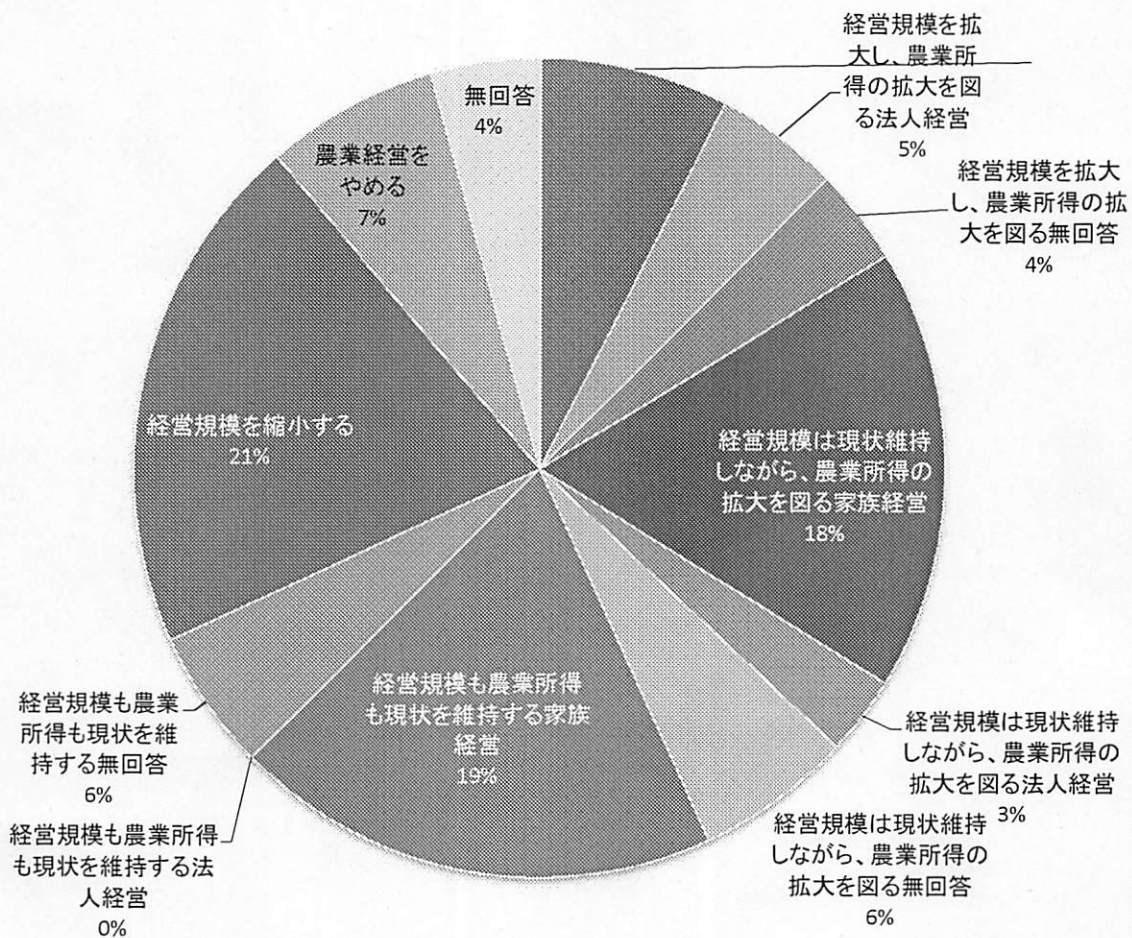
問10 問9で2, 3と回答した人のおうかがいします。農業を継ぐものがいなくなったとき、農地はどのようにしますか。(1つだけ選択)



コメント：「分からない」が最も多く、あとは「農地として貸す」が多かった。「分からない」との回答のうち、4割(16件)が60歳以上で、うち5件が70歳以上であった。安心して農地の引き継ぎが行えるシステムづくりが必要である。

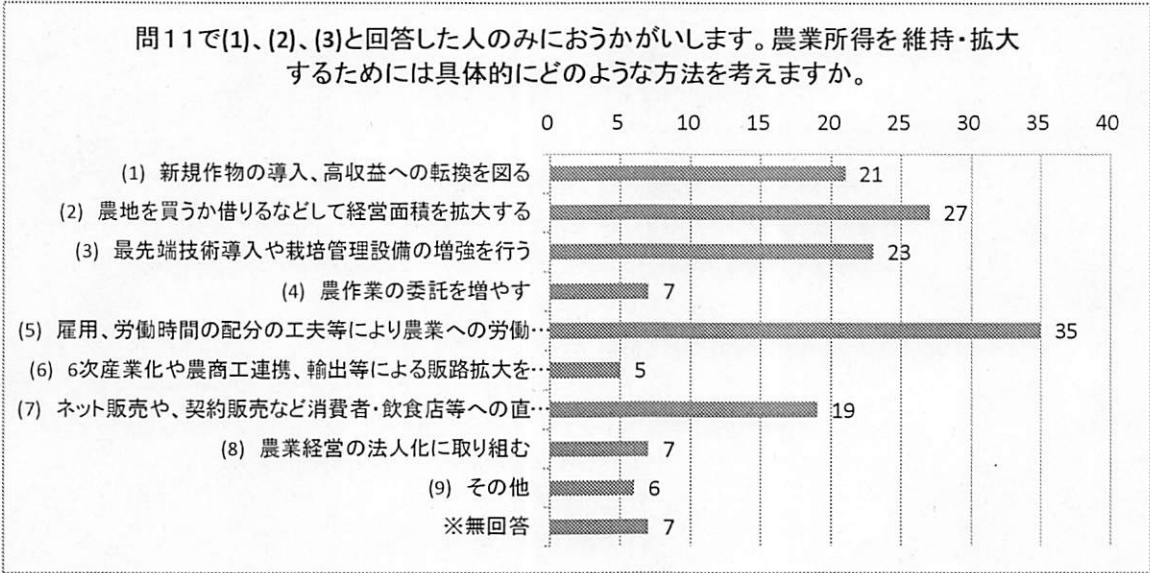
問11 将来（5～10年後）のあなたの家の農業経営について、どのような目標をもっていますか。（1つだけ選択）

将来（5～10年後）のあなたの家の農業経営について、どのような目標をもっていますか。



コメント：「経営規模は現状維持しながら、農業所得の拡大を図る」が最も多く、「経営規模も農業所得も現状を維持する」が次に多かった。その中で家族経営が多く、経営改善等により、何とか現状維持や所得向上につなげたいところがうかがえる。経営規模の縮小や農業経営をやめるとの回答も3割近くあり、厳しい状況がうかがえる一方で、規模拡大を目指す農業者も適度に見られることから、賃借のマッチングが必要である。

問12 問11で(1)、(2)、(3)と回答した人のおうかがいします。農業所得を維持・拡大するためには具体的にどのような方法を考えますか。(複数選択可)

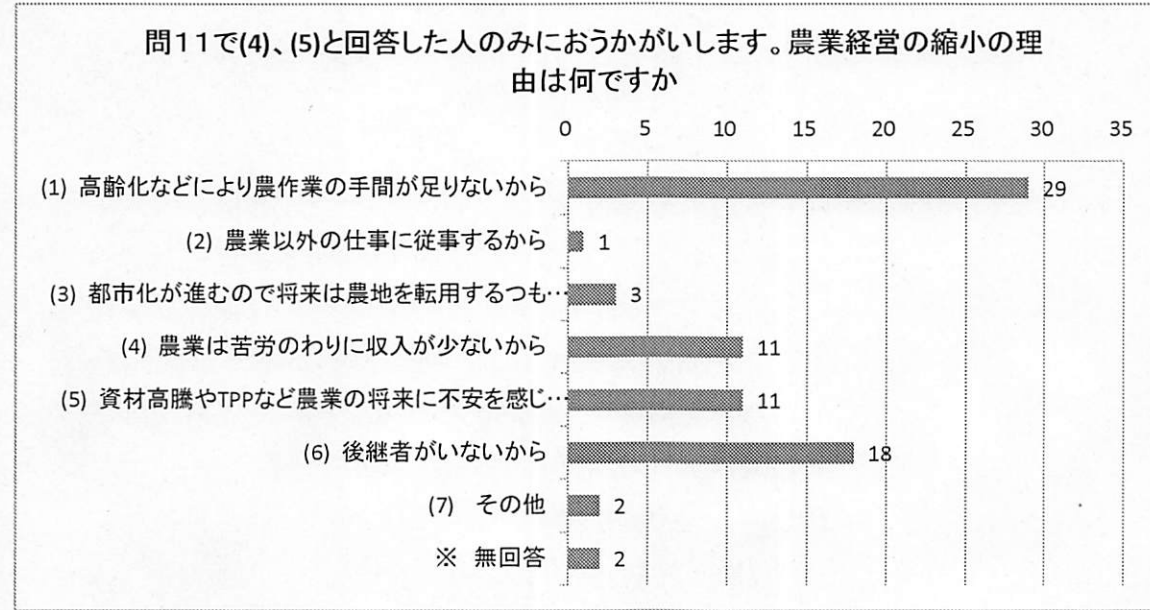


(9) その他

- ・省力化あるいは生産性を高める
- ・ハウス等高収益時期への収穫シフト
- ・ほうれん草のハウス面積拡大
- ・農地として維持する
- ・栽培技術の向上を目指す

コメント：「雇用、労働時間の配分の工夫等により農業への労働力を拡大する」が最も多く、「農地を買うか借りるなどして経営面積を拡大する」が次に多かった。労働力の見直しを図るとともに、機械・施設の整備や作目転換、販売方法の見直しも相応の回答があった。6次産業化や輸出まで考えている農業者は少なかったが、それでも複数の回答を得た。

問13 問11で(4)、(5)と回答した人のおうかがいします。農業経営の縮小の理由は何ですか。(複数選択可)



コメント：「高齢化などにより農作業の手間が足りないから」が最も多く、「後継者がいないから」が次に多かった。将来的には、高齢化・後継者不在による労働力不足による経営縮小が進むと考えられる。また、収益性や将来性についても不安があるようである。

問14 農業経営で困っていることは何ですか。ご自由にお書きください。

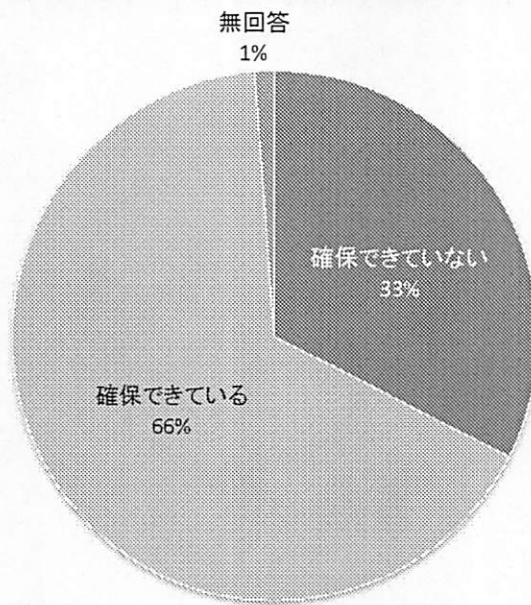
別紙に記入

コメント：生産資材・機械の高騰，販売出荷物の価格低下，労働力不足等を挙げている農業者が多い。

III 農業労働力についておうかがいします。

問15 現在のあなたの農業経営では、農業労働力は確保できていますか。

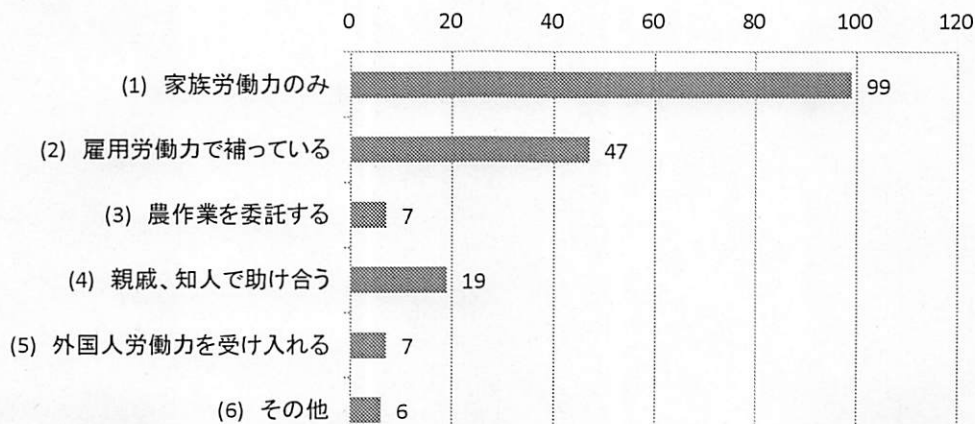
現在のあなたの農業経営では、農業労働力は確保できていますか。



コメント：「確保できている」が3分の2を占めたが，3分の1は確保できていない。

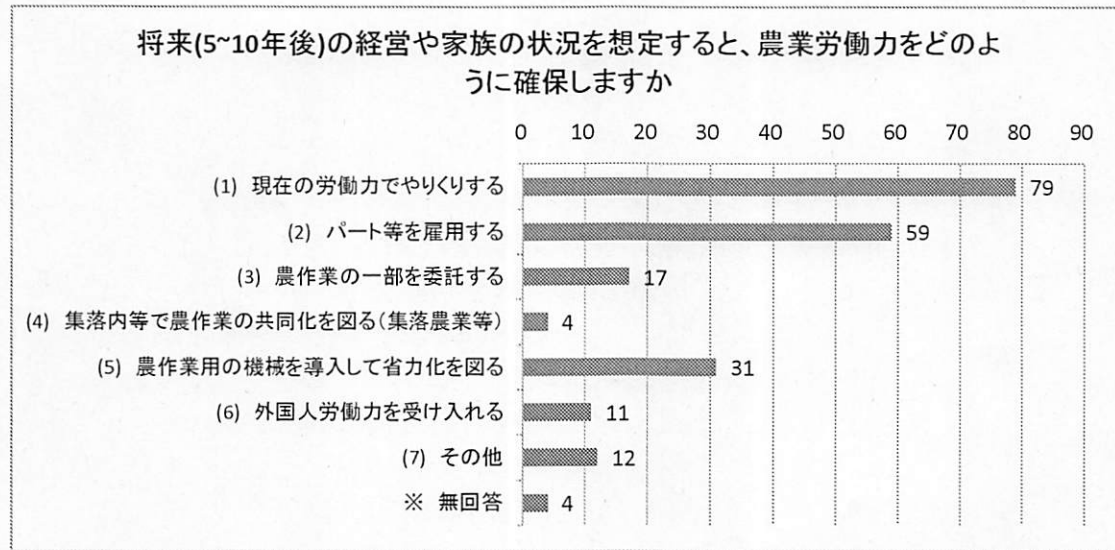
問16 現在、農業労働力はどのように確保していますか。（複数回答可）

現在、農業労働力はどのように確保していますか。



コメント：「家族労働力のみ」「親戚、知人で助け合う」が半数以上を占めている。知人の内訳がわからないが，できるだけ身内の労力で経費の出費を抑えているのが現状のようである。

問17 将来(5~10年後)の経営や家族の状況を想定すると、農業労働力をどのように確保しますか。(複数回答可)

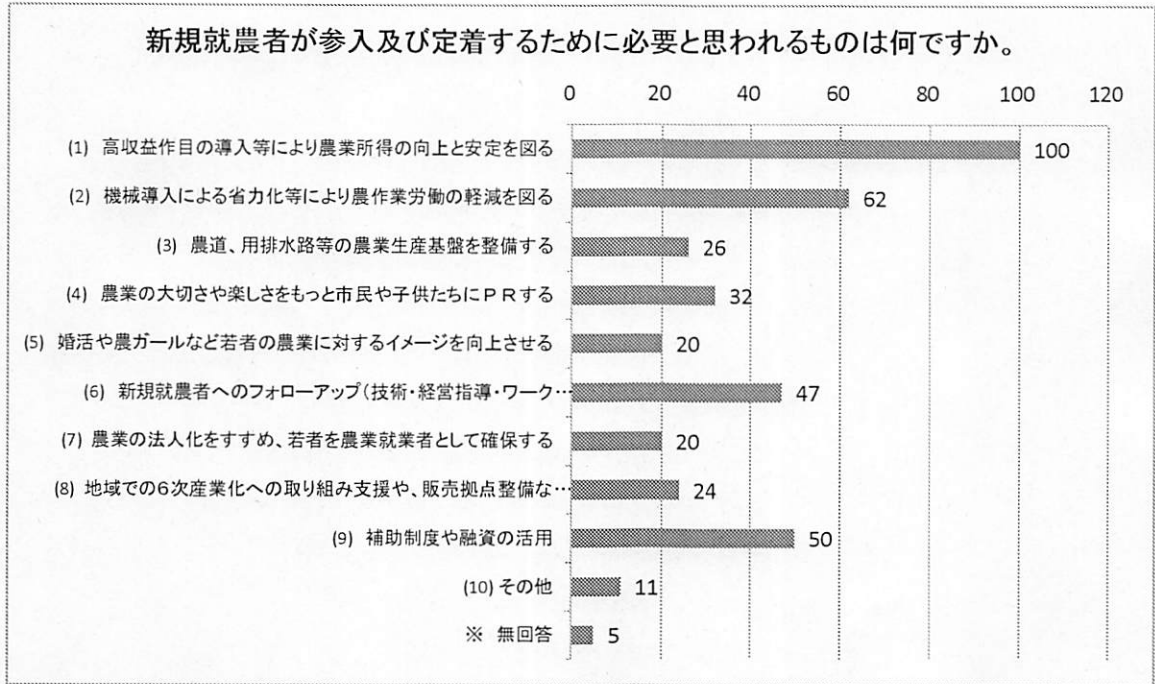


(7) その他

- ・シルバーセンター等新たな雇用
- ・規模の縮小
- ・高齢の為農作業は出来ない
- ・すべて委託か子供次第、今は不明
- ・現在耕作している農地も貸します
- ・家族労働力と一部パート
- ・家族の増減で対応予定
- ・資本、お金は入れない
- ・いずれ私も結婚するので手伝ってもらう(2世帯農業)
- ・確保できない
- ・農業をやめる

コメント：「現在の労働力でやりくりする」が最も多く、「パート等を雇用する」が次に多かった。「パート等を雇用する」の回答については、うち3割が規模拡大志向(問11結果による)、5割が現状維持志向農家。雇用の確保は不可欠な問題となってくる。

問18 新規就農者が参入及び定着するために必要と思われるものは何ですか。
(3つまで選択可)

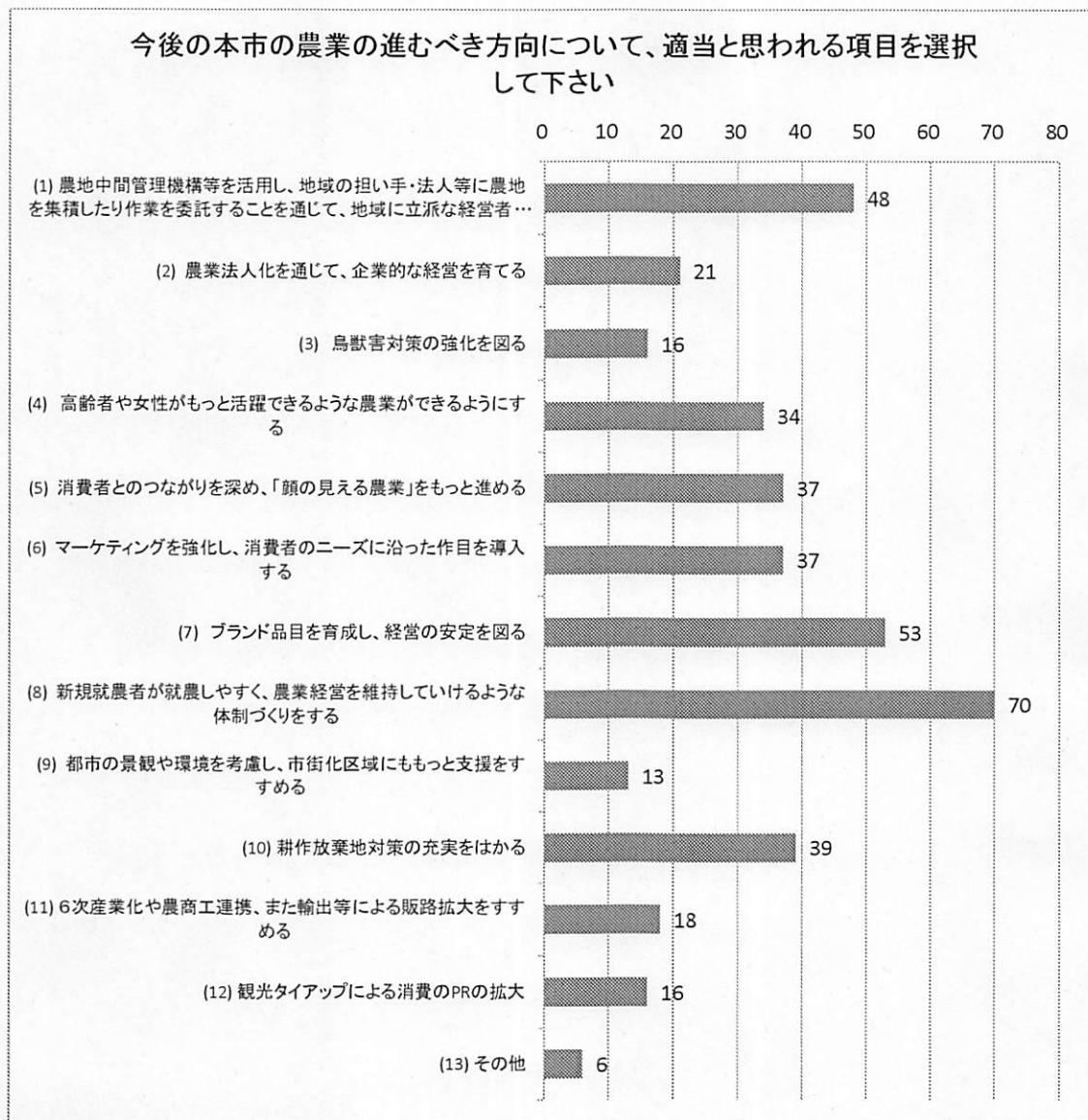


(10) その他

- ・ 将来に向けて夢を持てる政策
- ・ 今の補助金制度や融資の見直し
- ・ J Aの株式化をして大合併を行うこと
- ・ 農地を借りやすくする
- ・ 地下水の塩害が進み農業ができない
- ・ 現在の耕地関係を守る
- ・ 地域の古き人が新規就農者をいじめない
- ・ 新規就農者という制度がある事を若者に知ってもらう
- ・ 農家の跡取り息子にまで補助金はいらぬ。新規就農者にお金を使って
- ・ 現状の農家に余裕がないと昔のように助け合い等がなく定着しづらい？

コメント：「高収益作目の導入等により農業所得の向上と安定を図る」が最も多く、「機械導入による省力化等により農作業労働の軽減を図る」が次に多かった。最大の課題である所得向上と安定、また労働時間の短縮などによる作業の軽減を図ることが必要であると考えられる。

問19 今後の本市の農業の進むべき方向について、適当と思われる項目を選択して下さい。
(複数回答可)



(13) その他

- ・農協改革が必要
- ・農業収入のUP
- ・お金がすべて(収入)
- ・地域の強みを生かして(観光資源等)人を呼び込むイベント活動等
タイアップする

・一番の問題は高齢者兼業農家による農地放棄対策
・新しいことを導入するのよいが、現状の農家が補助金なしで減少していけば農業全体の将来はないと思う、周りをみると40代~60代の主力の方への補助がうすく自分がその年齢になるときへの不安がある。次世代(若手)への補助も必要だが、基礎(現状農家)の増強も将来へ必要と思う。

※ 無回答

7人 2%

コメント: 「新規就農者が就農しやすく、農業経営を維持していけるような体制づくりをする」が最も多く、「ブランド品目を育成し、経営の安定を図る」が次に多かった。新規参加者を増加させ、徳島ならではの農産物の育成・PRをしていくことが必要である。

問14 農業経営で困っていることは何ですか。ご自由にお書きください。

項目前の「再」は再掲

○資材の高騰、及び対する価格低迷

- ・使用農薬の減少、使用経費の増大（肥料、農薬、廃棄物処理）など農機具の減少、農地の減少。ここ数年は悪い方への変更はあるが良いニュースはあまりきかない（消費税、相続税関係等）
- ・資材の高騰、販売出荷物の安さ、パート不足
- ・資材（肥料等）の高騰。米価格の低下
- ・野菜の値段が安いのに肥料、農薬、資材の値上りで農業経営を圧迫している
- ・生活が苦しい。設備や機械代に費用がたくさんいるため補助金をもう少し増やして欲しい
- ・生産、資材の高騰。技術、政策等々の情報不足
- ・経費がたくさんかかる（機械、肥料等）それと近年の気候（集中豪雨）で作物が作りにくい
- ・油代の値上がりが大変
- ・生産資材の高騰により経営を圧迫しています
- ・雇用の確保。農業資材の価格上昇。雇用者の賃金の問題
- ・農業収入のほとんどが施設なので燃料の高騰、電気代の値上りその他施設の諸材料の値上がりが1番の痛手です
- ・販売価格の低下。電気（冷房等）重油価格の値上がり
- ・原価資材の経費高に比べて販売単価は上がらなく、年々不安定であり私を含めて後継者不足、魅力を感じないのが現状です
- ・天候の不安定なところ。重油燃料代の高騰
- ・肥料、出荷資材の高値供給により実益が減少
- ・農作物の価格が不安定であり、特に最近では生産費の大幅アップにより農業所得が低下している
- ・肥料、農機具、資材等の金額は毎年上がり、出荷する米、野菜の価格は安値安定か右肩下がりです
- ・農業機械代が高い、経費、資材が高い
- ・徳島市は地方都市なのに車がなければ移動できない燃料が高すぎて困っている。生産コストが高い事。野菜の値段が上がるとメディアは大々的にいう事、消費者の方にたっているが我々農業人も消費者である！
- ・重油代金が高くなって困っている
- ・農作物の安値（生産コストは高い）
- ・資材の高騰を価格に転化できない為、所得が減少している。また家族経営の場合、両親の高齢化や健康問題で労働力不足になる
- ・消毒、肥料等経費がかかりすぎて純利益がほとんど無い。とにかく収入が少ない
- ・年々販売単価が落ちている。燃料、資材費等は年々上昇している
- ・肥料、資材等、必要経費が高騰する一方、出荷物の価格が低迷している
- ・パイプハウスの高騰
- ・農業資材の高騰（燃油代も含む）
- ・材料費の値上げの中、売上げ値が上がらない事です
- ・燃料代金、農機具、肥料、農薬等農業にかかわるすべての物が値段が高すぎる。
- ・農協の資材が高く農協としての機能をはたしていない。
- ・燃料の高騰。大型量販店への定額販売（買ったたかれる）
- ・病害の発生が多く、出荷率の低下。固定資産税が高い。資材の高騰（特に油代）に対し販売価格の低下。カラスの害（ビニールに穴をあける）
- ・農業機械が高いので購入できないため作業が出来ない、又農協の肥料等も高く農業にとりまく事に困難が多いため、これからの農業について考えてもらえたらと思います。

アンケート調査結果

農業者用

- ・施設園芸農家ですが資材の高騰、販売額の減少、不安定なパート雇用等、年々経営が難しくなっています
- ・米が安い。農作物価格が不安定。肥料農薬その他資材が高すぎる。農機具が高い、売る物が安く、買う物が高い。

(価格低迷や収益性)

- ・農作物の価格安で経営が非常に苦しい。後継者の問題
- ・せっかく作った農作物の値が上がらない三品目共に
- ・米価の低迷
- ・高齢化により農作業がはかどらない。作物の価格の安定が望めない
- ・収入の低さ
- ・収益が少ない
- ・収入が不安定
- ・農業収入が不安定
- ・高齢化。収入が低い
- ・収入の安定
- ・農業後継者の出来る所得向上、政府に願って費いたい
- ・価格低迷
- ・市場価格の変動が大きく安定した経営ができない
- ・販売価格の下落
- ・新しい品目を市場に出荷しても、なかなか思うように売れない

○雇用の確保

- ・雇用する人材がなかなか見付からない。たい肥の散布により、苦情がある事
- ・雇用労働力の確保をする事
- ・雇用人の確保
- ・パート等の人材不足。農地のまとまった確保。農地法（ベトコン、ガルバハウス農地にして下さい）
- ・面積を拡大したいが空ハウスがない。人を雇いたいのが1年を通しての仕事確保できない

再・資材の高騰、販売出荷物の安さ、パート不足

再・雇用の確保。農業資材の価格上昇。雇用者の賃金の問題

再・施設園芸農家ですが資材の高騰、販売額の減少、不安定なパート雇用等、年々経営が難しくなっています

○高齢化・労力不足・後継者

- ・労働時間が長くなりすぎる。過重労働になる
- ・手間が不足している（手間をかけて作ってもそれが高価で売れる保証はない。できるだけ省力して栽培せざるをえない）
- ・老化
- ・手間不足
- ・高齢化
- ・家族の高齢化
- ・労力不足
- ・効率的な労働力確保。害虫の被害
- ・人手不足
- ・労働力の不足
- ・将来高齢化により農作業の手間が足りなくなる
- ・老齢化

アンケート調査結果

農業者用

・果樹は日々の仕事が忙しくて良品ばかりを作るのが大変な労働もいります。年がいくと重たい物を持つ事が出来なくなり運ぶ手間が大変です

・後継者（男）の結婚相手がいない

再・資材の高騰を価格に転化できない為、所得が減少している。また家族経営の場合、両親の高齢化や健康問題で労働力不足になる

再・収入の不安定。労働力の不足。資金不足。条件の良い借地がない。

再・農作物の価格安で経営が非常に苦しい。後継者の問題

再・高齢化により農作業がはかどらない。作物の価格の安定が望めない

再・農業後継者の出来る所得向上、政府に願って費いたい

○機械の更新や導入、設備の整備

・耕作面積が少ないので作業用の機械がなかなか買えない

・個人で購入すると高価で使用頻度もそれ程高くない機械（サブソイラー、フレールモア、ジャガ芋掘り取り機）などを共同出資し使用できるとありがたいです

・設備不足

・機械の更新

再・農業機械代が高い、経費、資材が高い

再・農業機械が高いので購入できないため作業が出来ない、又農協の肥料等も高く農業にとりまく事に困難が多いため、これからの農業について考えてもらえたらと思います。

○技術の向上

・栽培技術確立

・苺は1年間経験したものの今のところ適当な設置場所がないし技術経営能力に不安がある

再・生産、資材の高騰。技術、政策等々の情報不足

○気候変動・天候不順

・自然災害で出荷ができなくなる事

・作物の病気が増え、天候も不順になり作りにくくなった

・高速道路の建設により、気象条件が変化して農業ができなくなる可能性が高い

・天候に左右される（台風など） サル、イノシシ、シカ、カラス

再・経費がたくさんかかる（機械、肥料等）それと近年の気候（集中豪雨）で作物が作りにくい

再・天候の不安定なところ。重油燃料代の高騰

・病害の発生が多く、出荷率の低下。固定資産税が高い。資材の高騰（特に油代）に対し販売価格の低下。カラスの害（ビニールに穴をあける）

○鳥獣害

・鳥獣害が拡大、イノシシ、シカ、サル、カラス、ハクビシン等、果物はフェンスなしでは栽培が困難になっております

再・病害の発生が多く、出荷率の低下。固定資産税が高い。資材の高騰（特に油代）に対し販売価格の低下。カラスの害（ビニールに穴をあける）

再・天候に左右される（台風など） サル、イノシシ、シカ、カラス

○宅地化・近隣住民との問題

・住宅地の間に農地がある為に作業がやりにくい

・住宅が建ち、農道の散歩、山歩き等に迷惑している。犬の散歩などなど

・近隣の農地所有者が耕地を手放し宅地等へ転用されて住民とのトラブルが発生する。犬のふん、騒音、野焼きの煙等営農に影響が大

アンケート調査結果

農業者用

- ・騒音、農機具の音で苦情がでる。ゴミ、田畑に散乱する
- 再・雇用する人材がなかなか見付からない。たい肥の散布により、苦情がある事

○市街化区域の税制

- ・市街化区域農地の固定資産税が高すぎる
- ・固定資産税、都市計画税が高い
- ・農業経営を後継者に相続させる為には市街化農地に課税される相続税が高額なので経営者がおりながら農業経営に従事することができない

○農地等の取得

- ・パート等の人材不足。農地のまとまった確保。農地法（ベトコン、ガルバハウス農地にして下さい）
- 再・面積を拡大したいが空ハウスがない。人を雇いたい1年を通しての仕事を確認できない
- 再・収入の不安定。労働力の不足。資金不足。条件の良い借地がない。

○その他

- ・TPPへの不安
- ・資金と土地で有る
- ・経費の削減
- ・連作障害で困っているので手入砂を必要ですので考えてほしい。吉野川の砂であること
- ・販売先を増やす。ブランド品目を作る

その他

- ・現在の農業を思う時非常に困難であるイギリス流の環境保持で政府の援助が必要
- ・徳島県全体でのPR活動が大事だと思う
- ・ある程度農業で安定して生活できるような制度作りに力を入れて欲しい
- ・備蓄米を5年も保管しないで1年で処分し毎年新しく備蓄米を残し、米価をある程度安定してほしい
- ・前向きに農業経営をしている者に対する補助金等の支援を！
- ・農家に対する補助金がカットされる昨今、もう少しやる気を起こさせる農政を
- ・安全、安心な野菜が食べれる買えるお店のパンフレット作成など、若い消費者、観光客へのPRに力をいれてほしい。小松島のあいさい市場のような新鮮な食材が豊富で安く買える大きな産直があれば活気がでるのでは
- ・市場が値をつけ生産者が苦しい所もある。自分で生産し値をつけれる農業収入につながる
- ・1年目、2年目なので分かりません
- ・安定した農業収入がある農家にしたい。農家は色々な条件が悪すぎるから後継者が育たない最悪状態になっている
- ・日本の食料は日本で作ることが大切である。農地を守ることが必要である。定年退職者や家族経営で担い手を作ったらよいと思う。稲盛氏の経営手法を見習うべきである(失礼しました)
- ・高齢化、後継者不足などで今以上の農業は出来なくなりつつあります。企業の参入など今後は農業は農家としてでなく、企業関係の運営になりそう残念です
- ・昔の米みたいに国が買みたいなのいいですね。国じゃなく県又は市、JAに出荷というより市が枝豆買い取って販売とか。
- ・出荷数が増えてくると、どうしても売上も下がってくるので、ある程度まで下がったら、それ以上、下がらなくしてほしい
- ・農道の整備を図り、大型機械の出入りができる環境を是非お願い致します。地域から要望があれば改善願います
- ・農地の確保と外国人労働者の確保のマッチング

- ・市と農協の指導員と協力して農家の人（若い人）に技術指導してほしい
 - ・農業収入は減る方向であり、年金と農業（健康の為の仕事として）農業をする
 - ・今後消費税が10%以上になり、そのアップ分が正確に農産物価格に反映されなくて、生産者負担になるケースが多くなると思う。弱者にしわ寄せの来るようなら、ますます若者等は農業から離れていくのではないか？
 - ・「立派な経営者」とはどんな経営者ですか。私は別に立派でもありませんが、安全でおいしい物を毎年心がけて作っておるつもりです。マーケット、量販店の有り方が問われる時が来ていると思います。今はその辺りの人々が立派すぎるのではありませんか
 - ・農業で十分に生活が出来る事を前出し新規後継者をつくる。まず行政(市)としてはエリア別(問3)のモデルケース事例を造ってほしい。協力可能な集落を選定し既存農家(後継者)新規就農者で法人、市内企業、市場中心に販売先を考え適地適作の農作物を栽培経営を行う
 - ・家族農業で生活できるようにと思う
 - ・地球の温暖化によって天候が左右される事です！
 - ・このままだと大企業に販路をすべてうばわれるだろう。JAとJAの部会は危機感を
 - ・補助金制度、新規就農制度等問題あり。今後も農業は減るでしょう。自然な流れなんじゃないでしょうか？
 - ・若者が農業で生活していける様、地域や社会で販売拠点の整備をしてもらいたい
 - ・日本の農業とJA（農協）について！！
- 農業のあるべき姿、アメリカやオーストラリアの様な大型(大規模)農業を日本の農業に取り入れるべきでない。日本は小規模な農業で日本人の食卓を守り安全な食品を提供すれば良い、外国人の食文化(肉食主体)にはDNAが元来解るはずがない。霞ヶ関の官僚が日本の農業を語る資格はないし政治家を利用し自身の事しか考えていない。
- JA（農協）相互扶助の精神で農協が出来き、日本の発展に貢献して来た。今日の日本経済が成り立ったのは農業である事を分かるのは農協である。国は農協政策を行なおうと画策しているが誤りである。国は農協に対し資金補助と権限をJAに与え農協経営の安定を図りさえすれば日本農業も安定する
- ・6次産業化など将来性はまだあると思うが、小規模農家が独自で行うのはリスクも高く難しい行政でのバックアップがあればありがたい
 - ・安定的に収入が得られるようにしてほしい。安い単価が長期間続いているので高い単価にして欲しい
 - ・就農して10年を超えるが、年々状況は悪くなるばかり。アンケートも良いが本気で農業振興を考えるなら、地域の農地を集約する(現状を把握している)窓口を作るべきだと考える。現在は若い人間にしてみれば、はっきり言ってシステム(組織)がどうなっているのか分からない。
 - ・農地の周りに宅地ができると、農作業が大変難しくなります。県や市は簡単に許可しないで欲しい。川内は市街化調整区域のはずです
 - ・国の補助制度や補助金制度の中止！！お金だけに頼りすぎ、立派な経営者になるには銀行でお金を借りて運営していくものである。民間の会社を見本にすべし。南井上支所は新規参入農家でないのに、青年就農給付金制度を利用し金をもらっている農家が数件いる(苺農家)
 - ・高齢のため後継者にまかせる
 - ・収入UPが見込める事。小売りの値段が生産者に還元されていない様にみえるので中間マージン等の見直しを業界全体で取り組んでいただきたい
 - ・技術が駆使できる農業経営の確立を目指す。指導を政策を国策としてやっていただきたい
 - ・本気で新規就農者を育て農業の発展を国が思うなら、JAで購入する肥料農薬等の価格をもっとさげて新規農業者に購入しやすくするのが普通！！ホームセンター農業関係の店がはるかに安いのがおかしい。JAが一番の農家の味方であってほしい
 - ・野菜経営で安定した所得拡大が出来る様、政策を取り込んで貰いたい
 - ・本気度を全面に出していく行政。目に見える振興作に期待します
 - ・国の土地、食料に対する考えが甘い。国民にわからせることが1番。地震、原発事故、戦争が起これば早くわかる